

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

日本語が好きで、日本語発祥の地である京都で勉強がしたいと考えていました。

ホームページやオープンキャンパスを通して、授業やカリキュラムにすごく惹かれ、同志社女子大学で日本語を学びたいと思うようになりました。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

古典も英語も文法を重点的に勉強していました。1学期の時点では過去問は解っていませんでした。

英語は文法だけを完璧にしてればある程度正答率が上がると思っていましたが、単語も文法と同じくらいの時間を割かねると長文は解けるようにならずに速読もできるようになりませんでした。

私は隙間時間だけで単語を覚えるのは難しいと感じたので暗記の時間を作っていました。

〔夏休み〕

夏休みに入ってから過去問を解きはじめました。高校2年生のときにオープンキャンパスに参加させて

いただいたので、過去問題集は今年分持って来ました。夏休みが終わるまでに5年分を2回ずつ通せるように計画を立て取り組みました。古典はこの時期からは文章問題を解きながら志

いた文法や単語を覚え直すようにしていました。英語は参考書の文法と語法までの範囲を何回もしていました。その際には間違えた設問に必ず印をつけて空いた時間にはすぐ復習できるようにしました。

〔2学期～入試直前〕

夏休み明けからはほとんどの時間を過去問に使いました。量をこなすよりも2年分に絞って

全て理由付けしながら満点が取れるまでやり込むようにしました。解っていきながら、傾向と対策が本当に大切だと感じ、もう少し早い時期から過去問に触れておいた方が良かったと少し後悔しました。特に英語の問題形式に早め慣れておく対策がしやすくなります。

入試会場に持って行くのは英語も国語も単語帳だけにしました。文法書はホテルで勉強する用に持って行きました。余裕があればやり込む過去問の年数を増やす、文法書の語彙や熟語の範囲まで通す(英語)などが良いと思います。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は日中よりも夜の方が勉強が捗る方だったので少し無理をしても遅くまで起きていたことが多かったです。学校も朝早く、睡眠時間を削る事は抵抗がりましたが無理をするのは

10月までと決めて、11月は体調を整えることに専念しました。スマホに関する決め事は特にしませんでした。疲れたときは音楽を聴く、動画を観るなどリフレッシュに使っていました。

やる気がどうしても出ないときは、オープンキャンパスで頂いた先輩方の俳句集を読んで、ここで日本語を学びたいという気持ちとモチベーションを保っていました。また、15分間の睡眠が効果的だと聞き、よく15分睡眠もしていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験期はやりたかったことのできなから一番辛かったです。ですがそれ以上に大学で自分の好きなことを学びたいという気持ちで乗り越えてきました。試験前日と当日の会場に向かう

途中が一番緊張しましたが会場の人の多さに逆に吹っ切れて試験中は全く緊張しませんでした。そんなものだと思います。勉強がんばって下さい！応援しています。